

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島北小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国より低く、課題が見られます。特に「情報の扱い方に関する事項」においては、原因と結果など「情報と情報との関係」を結びつけて思考する部分で低い傾向が見られます。一方、「書くこと」では全国正答率とほぼ同程度で、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについて、一定の定着が見られました。
- ・算数の平均正答率は全国より低く、課題が見られます。「図形」問題の一部は全国平均を上回るものもありましたが、多くの領域において全国平均より低い状況です。特に「データの活用」においては、示された表やグラフなどを読み取り解答することに課題が見られました。また、「記述式問題」においては無解答も多く課題がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」「友達関係に満足していますか」「朝食を毎日食べていますか」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」など自己肯定感の低さが見られます。また5年生までの「ICT機器活用」についての数値が低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対する数値の低さから、自己肯定感が低い児童に対し、人から認められているという自己有用感を育むために、互いに認め合えるような全校的な取り組みや授業を行います。
- ・学校での「ICT機器活用」については、日々の授業の中で一人一台端末を一般的な教材教具として当たり前のように活用できるように、積極的に使用していきます。
- ・国語においては、原因と結果など「情報と情報との関係」について理解が深まるような授業を進めていきます。また主体的、対話的で深い学びを目指し、日常的に相手を意識しながらも自分の考えをもつ活動を授業等の中で意図的に設定して指導していきます。
- ・算数においては、学習内容の確かな理解につなげるため具体的な操作活動を重視するとともに、自分の考えを言葉や数、式を使い分かりやすく表現する場面を授業の中に多く取り入れていきます。式や言葉を効果的に使い説明する力を育成できるように、今後も継続して指導していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・各学年の「家庭学習の手引き」や山梨県の「学びの改善八か条」を活用するとともに、励ましの言葉をかけていただき、基礎学力定着のためにも家庭学習の習慣化に御協力ください。
- ・人のために役立つことの大切さを実感できるよう、家族としての役割をもたせるとともに、仕事や学習の様子をほめるなど、自尊感情がもてるような場面をつくってあげてください。